

令和7年度

尼崎市立園田南小学校 学校評価報告書

教育目標

「自ら学び共に生きる心豊かな子どもを育成する」

学校



みんなで学ぶ子（確かな学力）

- ・基礎基本の力 ・思考力、判断力、表現力
- ・自ら学びを追究する力 等

なかよくする子（豊かな心）

- ・思いやりの心 ・互いを尊重する心
- ・自然を愛する心 ・やさしい心 等

みんな元気だ（健やかな体）

- ・たくさん遊ぶ子 ・しっかり寝る子
- ・すききらいせず食べる子 等

家庭



地域



『学校評価の目的』

各校が学校運営について目標を設定し、その取り組みを評価することによって、学校として改善を図る。

学校評価を家庭や地域と共有することで、保護者や地域住民等からの理解と参画を得て、学校、家庭、地域が一体となって学校づくりを進める。

学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の改善を図ることで、教育水準の向上を図る。



○内容は、各部会の主な取り組みと成果や課題です。

みんなで学ぶ子（確かな学力）



学力向上部 ～学びの広がり～

今年度も、帯学習（みなみっ子タイム）では、基礎基本の定着を目指し、計算問題や漢字学習などを全学年で行いました。放課後学習も2～6年生は5月から、1年生は9月から開始しました。また、興味関心のある内容を主体的に追求して学ぶ「自主学習」にも継続的に取り組みました。年度当初に「家庭学習のすすめ」を児童に配布し、各学年系統立てて自主学習が進められるようにしています。より学びの質を高めるために、「自主学ウィーク」を学期に1回設け、学級や学年で、自主学ノート交流会をしました。交流会では、課題の見つけ方や追求の仕方、ノートのまとめ方への理解を深めることをねらいとしています。自主学ウィークでは、自主学の中でアイデアが良いもの、課題がしっかりまとめられているものをクラスで1点選出し、校長室前に掲示しました。学期ごとに選出して、選ばれた作品に対して、校長がコメントを書いたカードを添え、児童の意欲関心を高めました。

子どもたちの学力向上には、ご家庭や地域の協力が必要です。各家庭に配布している「学びの手引き」には、具体的な学び方やモデルが示されています。今後もより一層、学校、家庭、地域が一体となって子どもたちに働きかけ、基礎基本の定着はもちろんのこと、何事も主体的に追求し学びを深められる力を育てていきたいと考えています。

研究部 ～協働的な学びの姿～

今年度は、「自ら考え、深い学びのために他者と関わろうとする子どもの育成」をテーマに、教員が昨年度末に考えた目指したい子どもたちの姿を、授業中を含む学校生活のあらゆる場面で達成できるように、研究に取り組みました。

具体的な目指したい子どもたちの姿は、①自分の考えをもち、表現しようとする姿②他者の考えを汲み取り、理解しようとする姿③新たな疑問や考えを生み出している姿④考えを再構築し、他者と共に本質やゴールに向かう姿です。

これらの姿を目指すために、今年度も教科をしぼらず、各学年で自由に研究教科を選びました。また、その姿を達成するために、教師側は魅力的な学習課題（子どもたちの『やる気』を引き出すもの）と協働的な学び（自分たちの力でゴールに向かえるもの）を取り入れた授業づくりを目指してきました。また、個別最適な課題や場の工夫や、一人一台与えられているタブレット等のICT機器をツールとして使う学び方など、学び方の工夫も行いました。

今後も、系統性を意識した単元づくりと、その実績の積み上げを行い、子どもたちが教室のみならず、学年を越えて多くの仲間と関わり学びを深めることの良さが実感できるように、授業内容や方法を精査しながら実践に取り組んで参りたいと思います。

言語力向上部 ～本との出会い～

今年度は、ボランティアグループペガサスによる毎月のおはなし会の実施や、図書時間の司書教諭による読み聞かせ活動などを通して、児童が本に出会う機会を多くつくることができました。また、図書ボランティア「ぶっくママ」さんには新しく入れた本の準備や破れた本の修繕、しおり作り等、図書室の環境を整えていただきました。児童は、朝読書や読書記録に継続して取り組んでおり、読書の習慣が身につけてきています。毎朝1時間目が始まる前に学校全体で朝読書に取り組んでおり、どのクラスも落ち着いた雰囲気の中で一日をスタートすることができています。「多くの人に楽しく本を読んでもらうために、みんなで協力する」と目標を立てた図書委員会では、日々の当番活動に加え、読書週間の実施に向けて、児童が主体的に活動しました。特に、読書週間では、図書クエストと称した読書すごろくや各クラスへの読み聞かせを行うことで、児童がいろいろな分野の本に興味をもち手に取るきっかけをつくることができました。来年度も教職員間で連携を図り、国語科での並行読書等、児童が読書の幅を広げられる機会を多くつくっていきたいです。

なかよくする子（豊かな心）



生徒指導部 ～みなみっ子3つのルール～

今年度も「みなみっこのきまり」として「あいさつをしよう」・「名札をつけよう」・「くつ、スリッパをそろえよう」という3つを重点的に子どもたちに指導をしてきました。学校全体で取り組むことであいさつや名札の着用は少しずつ増えてきたように感じます。一方で靴そろえに関しては、まだまだ不十分です。

また、今年度はいじめなどの問題に「チーム学校」として対応する組織づくりも構築してきました。生徒指導関係のことに関して、学年全体で、また学校全体で情報を共有するシステムを構築することで柔軟な対応をすることができたと感じています。

時代の流れとともに子どもたちを取り巻く環境も変化しています。そんな時代の変化に対応し、自ら考えて行動できるよう、今後も職員が一丸となり指導していきます。

特別活動部 ～みなみっ子ファミリー～

特別活動では「互いの良さや可能性を發揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、さまざまな資質や能力を育成する」ことを目指しています。今年度もより幅広く様々な学年との関わりがもてるように、1・4・6年生と2・3・5年生でグループを作って活動する「ファミリー活動」に取り組みました。週に1回ファミリー清掃を取り入れることで、日常的に異学年と関わる機会をもちました。ファミリー遊びも各学期に1回ずつ実施し、高学年が中心に企画・運営を行ってファミリーで楽しく遊ぶことができました。

また、そのほかにも1学期には1年生を迎える会や体育大会での応援合戦、2学期には児童会役員主催のイベント、3学期には体育部と連携したなわとびあそびや6年生を送る会を実施しました。それぞれの行事において、他学年への思いを形にしたり、異学年との交流をメインにした活動を行ったりしてきました。

今年度の実践を踏まえ、今後も他者との関わりの中で子どもたちがより豊かな経験を積むことのできる、またそれぞれの学年に応じた力を發揮できるような特別活動を行っていきたく考えています。

道徳部 ～心の成長と情報モラル～

道徳的な判断力、心情、実践意欲や態度を育成し、よりよく生きるための指導を、今年度も授業を中心に行ってきました。

まず、情報モラルの学習では、1人1台のタブレット端末を使用するにあたり、情報機器を使う際の約束について指導しました。高学年では、個人情報を守ることや、インターネットを利用する際の注意点について学習しました。一方、低学年では、タブレット端末の使い方やルール、言葉のモラルなどを学習しました。これらの情報モラルの学習を通して、規範意識を育むことができました。

次に、人権教育と連携し、人権週間には人権に関わる授業を行ったり、日ごろの感謝の気持ちを伝える取組として、全校で「ありがとうの葉」を実施しました。また、今年度は放送委員会が「ありがとうの葉」を全校放送で紹介するなど、学校全体で人権について考え、理解し、意識する時間を持つことができました。

一方で、授業で学習したことが日常生活の中で十分に生かされていないという課題もあります。来年度は特別活動等とも連携しながら、引き続き人権教育や情報モラルの指導を行い、さらなる道徳的実践力が身に付くよう、継続的に指導していきます。

みんな元気だ（健やかな体）



保健部 ～知ろう！学ぼう！自分の体～

自分のからだを守り、基本的生活習慣を身につけることを目標に、クラスや学年など集団への保健に関する指導や、個々の子どもたちへの指導、児童保健委員会の活動を行ってきました。集団への指導としては、性に関わる保健の授業に加えて、助産師を外部講師として行った生命の誕生に関する授業、身体測定前の養護教諭による保健指導などを行い心身の発達についての理解を深めました。また、4年生児童と希望される保護者を対象として開催した学校保健委員会では、本校スクールカウンセラーによるストレス・怒りの対処法についての講話を行い、いつでも気軽にできるリラックス法や気持ちを上手く伝える言葉がけの具体的な方法を学びました。個々の児童に対しては、学校生活の中で起こる健康課題に関して、体調不良の児童と一緒に生活の振り返りを行ったり、けがの際の応急手当の方法を伝えたりと、子どもたち自身が自分の体に興味を持ち、健康の保持増進に向けた行動を考えられるよう、指導をしてきました。また、昨年度に引き続き、児童保健委員会では、ハンカチ、ティッシュ、爪切りのチェックを行う衛生検査を実施し、毎月クラスごとに数字にした結果を掲示しました。過去の月との変化を見たり、ほかのクラスと比較したりし、より良い結果を残そうと、児童同士で声を掛け合っている様子も見られ、衛生面から健康の保持増進を意識づけられるきっかけとなりました。

体育部 ～子供と運動を紡ぐ～

体育では「子どもたちが運動を楽しみ生涯にわたって運動に親しむことができる素地を育てるとともに、健康的な体づくりと体力の向上を目指す」という目標のもと、授業改善や体育的行事に取り組んできました。今年度も、目標が達成できるよう日々の授業の改善を行ってきました。授業中は、それぞれの運動のもつ楽しさに触れられるよう授業を展開することで、運動やスポーツに親しむ児童が多く見られるようになりました。体育大会は、「日常では経験できない大集団で運動やスポーツに親しむ みんなでつくる体育大会」ということを目標に実施しました。昨年度に続き度保護者の方々にも「体育大会のつくり手」となってもらうべく、観覧学年を制限した形で保護者を入れた体育大会を実施しました。当日はトラブルもなく、スムーズな運営を行うことができました。一方で、運動場の広さと児童数の多さから全校児童および全保護者で創る体育大会という点では不十分でもありました。来年以降も目標や反省を元に良い形を検討していきます。3学期には、みなみっこなわとびあそびをファミリー活動の一環として実施しました。少ない回数ではありましたが、学年の垣根を越えて一緒になわとびあそびをすることで、様々な運動能力の人と運動を楽しむ力を身につけることができました。今後も子どもたちがさまざまな遊びに触れる機会を増やし、安全な場で運動を楽しみながら体力を向上させることができるようにしていきたいと考えています。

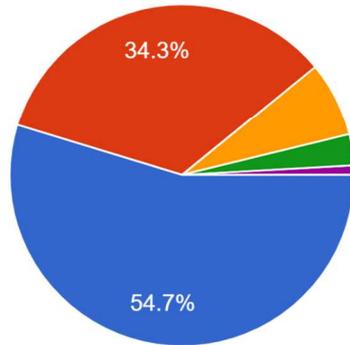
食育部 ～食生活と健康な体づくり～

望ましい食生活を知り、実践しようと励む児童の育成を目指して、引き続き健康的な食生活の意識向上に取り組んできました。各学級での食育指導、給食便りの発行などを定期的に行っています。給食週間は、調理師さんへの感謝の手紙贈呈、給食委員会で企画した給食クイズやビンゴゲームを通して、食べものや食生活に興味をもつきっかけをつくることができました。全国食育月間は、日本の伝統的な食育文化である「箸」の持ち方に興味を持たせるために M-1 グランプリ（豆つかみ大会）を実施しました。学校と家庭との連携を深めるために給食試食会を1年生の保護者を対象に開催しました。日々の給食においては、給食委員会の児童が献立に使われる食材の掲示を行ったり、外国人講師が給食時間にメニューを英語で紹介し、クイズを行ったりすることで、子どもたちは給食に関心を持つとともに、英語の言い方にも親しむことができました。各学級で配膳時や食事の衛生管理に細心の注意を払いながら、個々の児童に合わせた配食量の工夫をしています。今後も子どもたちが栄養のバランスや規則正しい生活の大切さについて知り、実践しようとするので、健康な体づくりに繋がるよう継続的な食育指導に取り組んでいきたいと思えます。

《保護者アンケートの主な結果》

子どもは、学校に楽しく行っている。

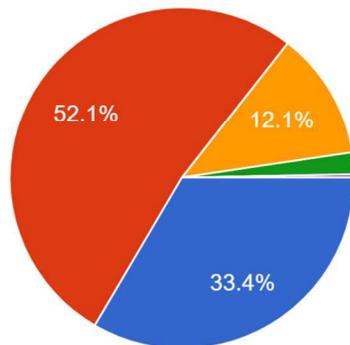
338 件の回答



- ほとんど当てはまる
- どちらかという当てはまる
- どちらとも言えない
- どちらかという当てはまらない
- ほとんど当てはまらない

子どもは学習した内容が理解できている。

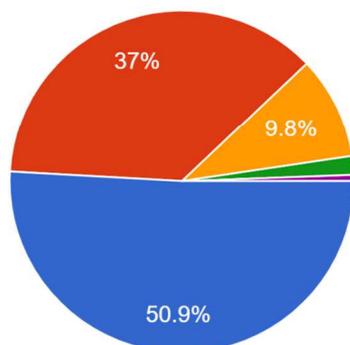
338 件の回答



- ほとんど当てはまる
- どちらかという当てはまる
- どちらとも言えない
- どちらかという当てはまらない
- ほとんど当てはまらない

子どもは友だちと仲良く遊んだり生活したりしている。

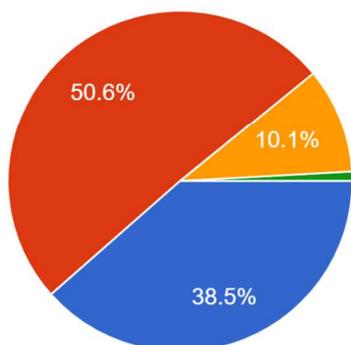
338 件の回答



- ほとんど当てはまる
- どちらかという当てはまる
- どちらとも言えない
- どちらかという当てはまらない
- ほとんど当てはまらない

子どもは、良い悪いの判断ができています。

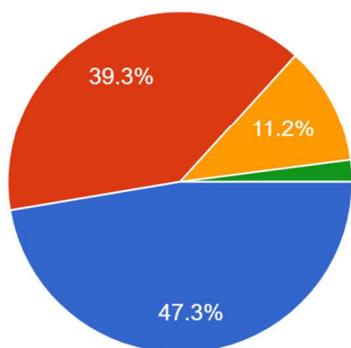
338 件の回答



- ほとんど当てはまる
- どちらかという当てはまる
- どちらとも言えない
- どちらかという当てはまらない
- ほとんど当てはまらない

教職員は子どもと適切に関わることができています。

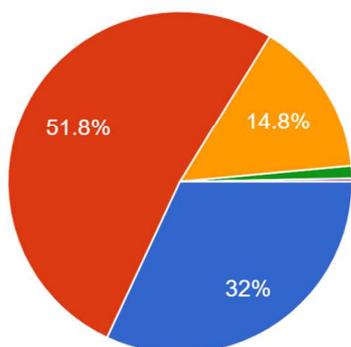
338 件の回答



- ほとんど当てはまる
- どちらかという当てはまる
- どちらとも言えない
- どちらかという当てはまらない
- ほとんど当てはまらない

7. 子どもは、困っている友だちなどに親切にできています。

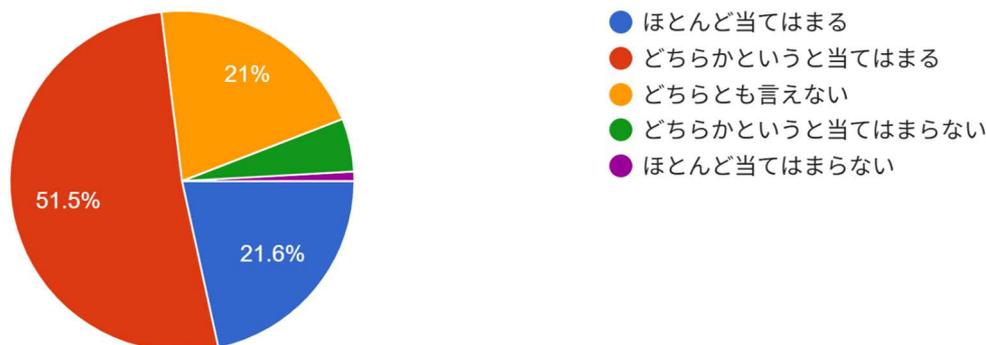
1 件の回答



- ほとんど当てはまる
- どちらかという当てはまる
- どちらとも言えない
- どちらかという当てはまらない
- ほとんど当てはまらない

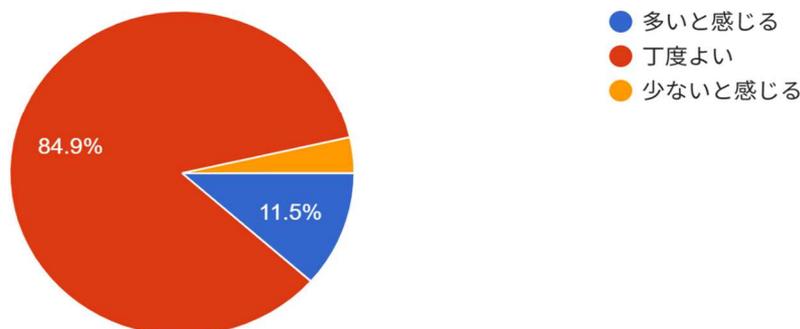
学校、学年だより、その他プリント類、ホームページなどを通して、学校の様子がよくわかる。

338 件の回答



参観や懇談、オープンスクール、学校行事などの回数は適切である。

100 件の回答



アンケートに寄せられた意見

○参観やオープンスクールの回数やあり方について

→参観やオープンスクール、学校行事、懇談等で学習の様子を参観していただいたり、保護者の方とお話ししたりする機会は年間を通して月1回程度になるよう設定しています。学年ごとに日にちをずらすと、多くとってもらわないといけないこともあり、年度最後の参観のみとしています。

○音楽会等の行事運営の在り方

→本校は児童数が市内一多く、体育大会や音楽会は入れ替え制で行っています。その中で運営方法に関して保護者の皆様にはご不便をおかけしている部分が多くあると思います。よりよい運営方法について再考させていただきます。

○クラスルームのお知らせを探すのに時間がかかる。一覧でまとめて確認できる仕組みが欲しい。

→クラスルームを開いて、画面上部にある【授業】からトピックを選んで頂くに関連する情報を探しやすくなります。

○運動場にあるベンチで釘がでていて危険だった。

→ご報告ありがとうございました。早急に修繕し、今後の安全管理にも努めてまいります。

○参観やオープンスクールなど、日程が決まった段階で報告してほしい。

→学校だよりや学年だより HP 等でできるだけ早く報告できるよう努めます。

～ 総 評 ～

みんなで学ぶ子【確かな学力の向上】

令和7年度も、朝読書、そして昼の帯学習の時間に、算数・漢字プリントなどで基礎の定着を図り、毎週月曜日の放課後学習を実施しました。この毎日の積み重ねが、例年尼崎市で実施している「あまっ子ステップアップ調査」に結果として表れていました。小学校1年生から6年生までの国語・算数におきまして、その平均正答率は、今年度も全国平均の数値、尼崎市内の小学校の数値をすべて上回るものでした。学年、教科によっては、その差を15ポイント以上越えるものもありました。毎日の学習に向けての取り組みが結果として明確に数値に表れているものでした。また、意識に関する調査結果では、学力向上に関係の深い20問の中の挙げられているいくつかの項目として、次のようなものがありました。

「新しく習ったことは、何度もくり返して練習している。」「テストで間違えた問題は、もう一度やり直している。」「わからないことはそのままにせず、わかるまで努力している。」「学習して、わかったりできたりすることが増えるのは、うれしい。」など、これらの質問内容に対しての、「そのとおりである」という肯定群回答割合においても、全国の数値、尼崎市の数値を上回っておりまして。普段の、児童の学習に対する姿勢が、教科の数値に見事に表れているようです。昨年度も記しましたが、読書について、本校児童はよく本を読みます。週に一コマですが、図書室で本を読んで過ごす時間を設けており、本にふれる時間が必然的に多くなっています。読書力向上担当の望月先生も、児童が様々な本に興味関心をもってもらえるように、児童に読み聞かせをおこない、今年度からは高学年を対象に、ブックトークもスタートしました。図書室で本を手にとれる最適な環境づくりをしています。

なかよくする子【豊かな心】

数年前のコロナ禍がきっかけで、世間的にも人と人とのつながりが弱くなりがちであった状況の中で、学校としてできることとして、子どもたちを人との関わりの中で育てられるように、できる限り機会を多く持ち、取り組みそのものに厚みを持たせるなど、様々な工夫をしてみました。例えば、学年をこえて一緒に活動する機会の一つとしてファミリー活動に力を入れ、意図的に異学年の交流に重点を置きました。そして高学年の児童と低・中学年の児童とがファミリー清掃をとおして一緒に活動できるように設定しました。低・中学年の児童が高学年の児童から学ぶことも多く、高学年の児童にとっても、目の前の相手に、自分の考えをことばを選びながら、きちんと伝えることのできるきっかけづくりとなっていました。

みんな元気だ【健やかな体】

今年度も体育の授業を中心に、楽しみながら健康的な体づくりと体力向上を目指して、工夫したカリキュラムを実施しました。体育大会の企画運営につきまして、大規模校であるがゆえの様々な課題を克服するべく、試行錯誤しながらもなんとか、現在の形にできました。保護者の皆様におかれましては、多くのご協力ご支援のもと、お子様のダンスも走競技もともにご観覧いただくことができ、おかげさまで無事に開催を終えられましたことに感謝申し上げます。体育大会をとおして児童一人ひとりの充実感、達成感につなげることができたと感じています。

今年度も、本校の学校運営につきまして、ご支援をいただきまして本当にありがとうございます。来年度も引き続き、どうぞ宜しくお願いいたします。